

次期すずかハートフルプラン策定のためのアンケート調査結果について【抜粋】

1 調査概要

(1) 調査地域

鈴鹿市全域

(2) 調査対象者

市在住の障害者手帳所持者（無作為抽出） 1,500 人

市在住の障害者手帳未所持者（無作為抽出） 1,500 人

(3) 調査期間

令和4年9月9日～令和4年9月30日

(4) 調査方法

郵送配布，郵送回収及びWEB回答による調査

(5) アンケート内容

障害者手帳所持者 設問数 42

基本的なことについて，現在の生活について，災害時の対応について，仕事について，教育について，社会参加について，福祉サービスについて，差別の経験について，権利を守る制度について，満足度について，自由記載

障害者手帳未所持者 設問数 25

基本的なことについて，障がいのある方との関わりについて，障がいのある方への理解について，障がいに関する情報について，障がいのある方を取り巻く環境について

※設問内に「MA」とあるものは複数回答の設問となっており，記載された割合の合計が100%にはなりませんのでご注意ください。

2 回収結果

	配布数(件)	有効回収数(件)	有効回収率(%)
障害者手帳所持者	1,500	834	55.60
回答別	郵送	735	49.00
	WEB	99	6.60
障害者手帳未所持者	1,500	646	約43.07
回答別	郵送	469	約31.27
	WEB	177	11.80
全体	3,000	1,480	約49.33
回答別	郵送	1,204	約40.13
	WEB	276	9.20

■障害者手帳所持者

【現在の生活について】

問 10 あなたの現在の生活で困っていることや不安に思っていることはどれですか。MA

全体では「自分の健康や体力に自信がない」が最も高く、「特に困っていることはない」、
「将来的に生活する家、施設があるかどうか不安」、「生活に必要なお金が足りない」と続
きます。令和2年度の調査と比較したところ、大きな変化はありませんでした。手帳別で
は、身体・精神障害者保健福祉手帳所持者は「自分の健康や体力に自信がない」、療育手
帳所持者は「将来的に生活する家、施設があるかどうか不安」が最も高くなっています。

	1	2	3
全体 834件	自分の健康や体力に自信がない (42.1%)	特に困っていることはない (26.1%)	将来的に生活する家、施設があるかどうか不安 (19.7%)
全体(R2) 536件	自分の健康や体力に自信がない (41.8%)	特に困っていることはない (22.8%)	生活に必要なお金が足りない (21.8%)
身体 595件	自分の健康や体力に自信がない (46.6%)	特に困っていることはない (27.4%)	生活に必要なお金が足りない (17.6%)
療育 121件	将来的に生活する家、施設があるかどうか不安 (38.0%)	特に困っていることはない (28.9%)	生活に必要なお金が足りない (14.9%)
精神 105件	自分の健康や体力に自信がない (44.8%)	生活に必要なお金が足りない (33.3%)	将来的に生活する家、施設があるかどうか不安 (21.9%)

問 13 今後、障がいのある人が地域で社会生活を営むためにはどのような条件が必要だと思いますか。MA

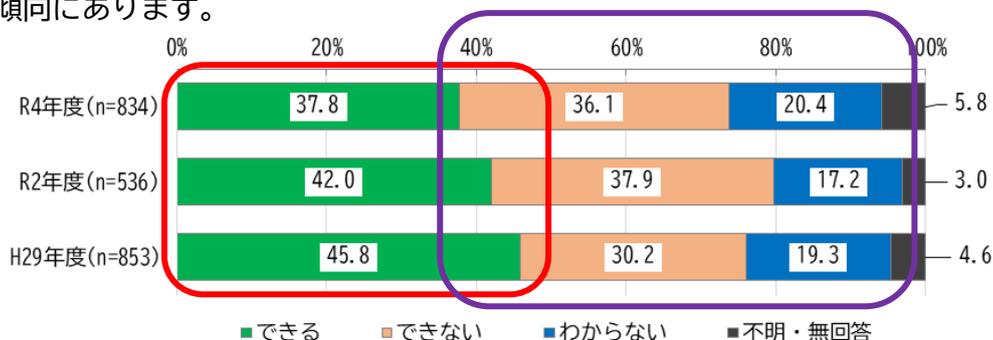
全体では「家族やパートナーなどの理解者がいること」が最も高く、「在宅の福祉サービスが充実すること」、「身の回りの家事などを手伝ってくれる人がいること」と続きます。手帳別では、いずれも「家族やパートナーなどの理解者がいること」が最も高く、身体障害者手帳所持者では「在宅の福祉サービスが充実すること」、療育手帳所持者では「支援スタッフのいるグループホームなどに入れること」、精神障害者保健福祉手帳所持者では「身の回りの家事などを手伝ってくれる人がいること」が次点となっています。

	1	2	3
全体 834件	家族やパートナーなどの理解者がいること (45.8%)	在宅の福祉サービスが充実すること (38.4%)	身の回りの家事などを手伝ってくれる人がいること (34.9%)
全体(R2) 536件	家族やパートナーなどの理解者がいること (41.0%)	在宅の福祉サービスが充実すること (39.7%)	身の回りの家事などを手伝ってくれる人がいること (35.8%)
身体 595件	家族やパートナーなどの理解者がいること (47.4%)	在宅の福祉サービスが充実すること (42.4%)	身の回りの家事などを手伝ってくれる人がいること (35.0%)
療育 121件	家族やパートナーなどの理解者がいること (43.8%)	支援スタッフのいるグループホームなどに入れること (43.0%)	通えるなじみの場所があること (37.2%)
精神 105件	家族やパートナーなどの理解者がいること (48.6%)	身の回りの家事などを手伝ってくれる人がいること (35.2%)	通えるなじみの場所があること (34.3%)

【災害時の対応について】

問 14 あなたは、災害が発生した場合、ひとりで避難することができますか。

全体では「できる」が 37.8%、「できない」が 36.1%となっており、過去の結果と比較すると、平成 29 年度以降「できる」が減少傾向、「できない」「わからない」がいずれも増加傾向にあります。



問 15 問 14 で「できない」と回答した方で、災害のために避難が必要になる際、手助けをしてくれる人はどなたですか。

全体では「家族や親せき」が最も高く、「隣近所の人」が続きます。手帳別でも同様の傾向ですが、精神障害者保健福祉手帳所持者では「手助けをしてくれる人はいない」が、ほかの手帳所持者より多くなっています。

	1	2	3
全体 301 件	家族や親せき (77.1%)	隣近所の人 (13.3%)	その他 (8.3%)
全体(R2) 253 件	家族や親せき (73.9%)	隣近所の人 (14.8%)	手助けしてくれる人はいない (7.9%)
身体 218 件	家族や親せき (77.5%)	隣近所の人 (15.1%)	その他 (8.3%)
療育 59 件	家族や親せき (83.1%)	その他 (10.2%)	手助けしてくれる人はいない・隣 近所の人 (6.8%)
精神 26 件	家族や親せき (61.5%)	手助けしてくれる人はいない (19.2%)	隣近所の人・その他・わからない (7.7%)

新設 問 16 災害時に困ることは何ですか。MA

今回の調査で災害時に困ることについてアンケートをとりました。全体では「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」が最も高く、「投薬や治療などの医療的ケアが受けられない」、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が続きます。

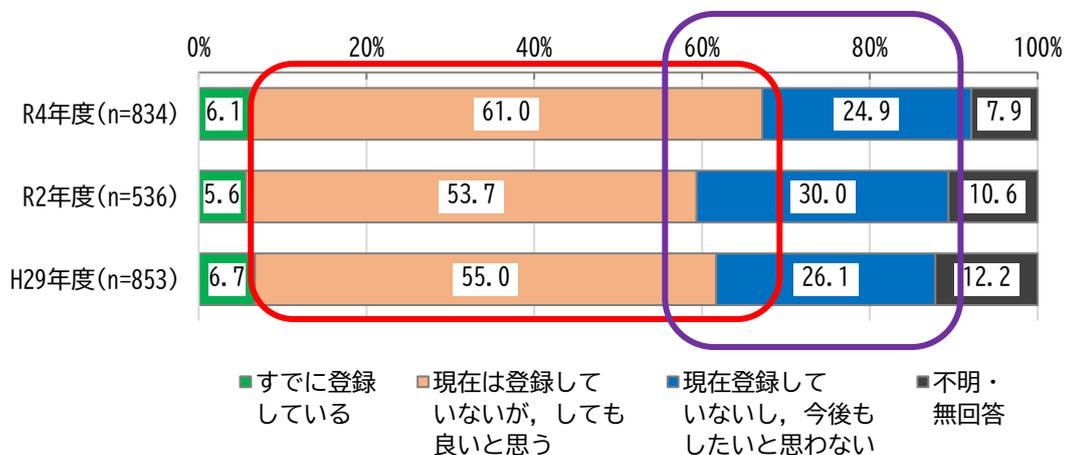
手帳別では、全体結果とおおむね同じですが、療育手帳、精神障害保健福祉手帳所持者では「周囲とのコミュニケーションがとれない」が上位にきています。

	1	2	3
全体 834 件	避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安 (56.6%)	投薬や治療などの医療的ケアが受けられない (52.3%)	安全なところまで、迅速に避難することができない (44.8%)
身体 595 件	避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安 (55.3%)	投薬や治療などの医療的ケアが受けられない (54.5%)	安全なところまで、迅速に避難することができない (47.2%)
療育 121 件	避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安 (64.5%)	安全なところまで、迅速に避難することができない (52.1%)	周囲とのコミュニケーションがとれない (49.6%)
精神 105 件	投薬や治療などの医療的ケアが受けられない (60.0%)	避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安 (58.1%)	周囲とのコミュニケーションがとれない (34.3%)

問 17 災害時の救援のために、災害時要援護者台帳に登録しても良いと思いますか。

全体では「現在は登録していないが、しても良いと思う」が最も高く、「現在登録していないし、今後もしたいと思わない」、「すでに登録している」と続きます。

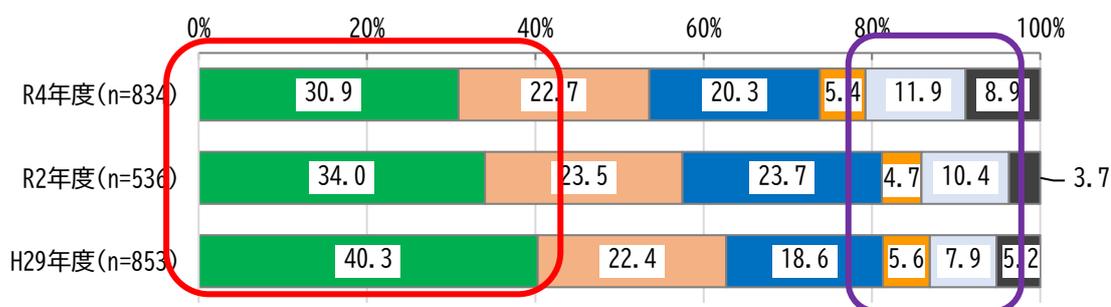
過去の調査と比較すると、「現在は登録していないが、しても良いと思う」が増加傾向にあり、意識の変化がうかがえます。



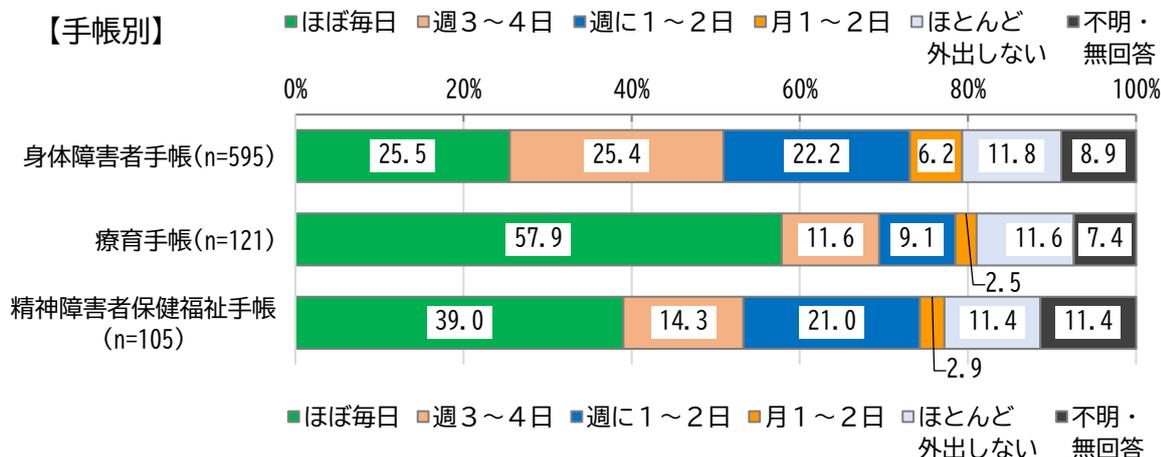
【社会参加について】

問 26 あなたは、現在どのくらいの割合で外出しますか。

外出の割合は、全体でみると「ほぼ毎日」が最も高く、「週3～4日」、「週に1～2日」と続きます。過去の調査と比較すると、平成29年度以降「ほぼ毎日」が減少傾向、「ほとんど外出しない」がやや増加傾向にあり、コロナ禍による外出自粛の影響があると想像できます。



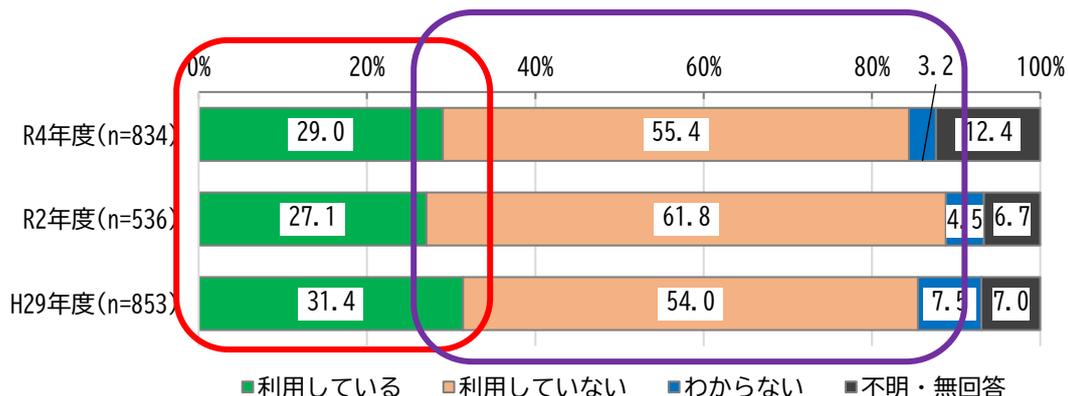
【手帳別】



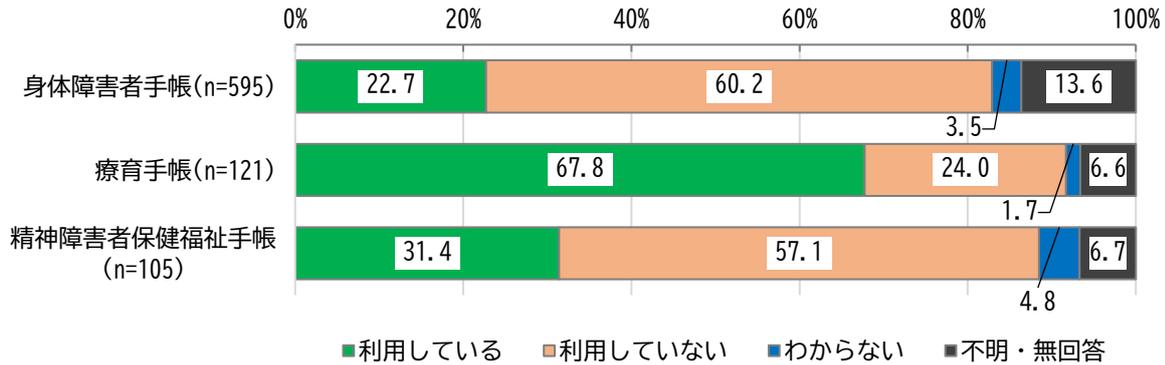
【福祉サービスについて】

問 28 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。

全体でみると「利用していない」が55.4%、「利用している」が29.0%となっています。過去の調査と比較すると、「利用している」がやや減少傾向ですが、大きな変動はありません。手帳別でみると、身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者では「利用していない」が「利用している」を上回り、療育手帳所持者では「利用している」が「利用していない」を上回っています。



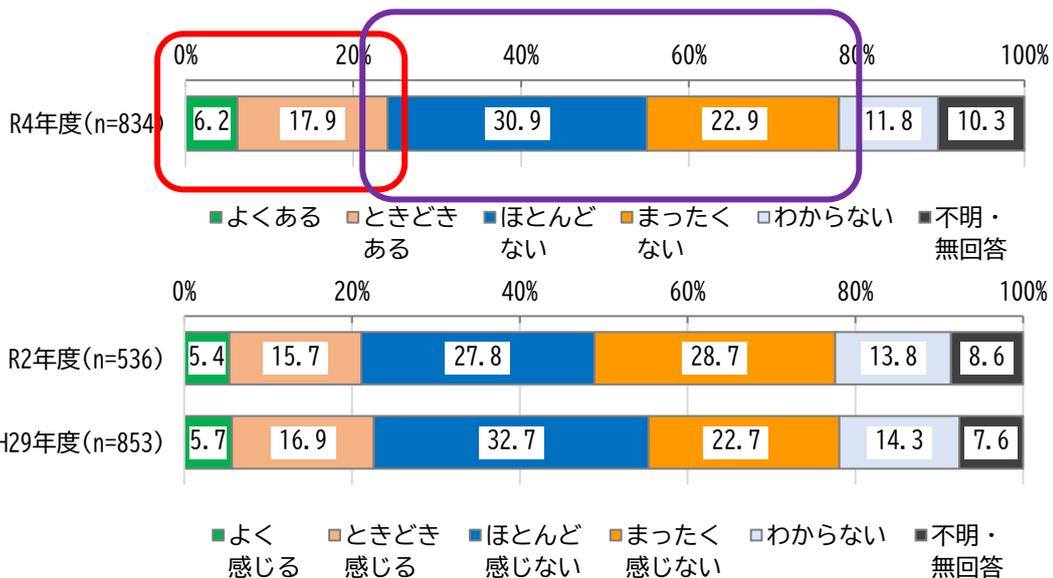
【手帳別】



【差別の経験について】

問 31 あなたは障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。

全体では「よくある」「ときどきある」を合わせたものが 24.1%、「ほとんどない」「まったくない」を合わせたものが 53.8%となっています。過去の調査と比較すると、大きな変動はありません。



<問 31 で「1. よくある」「2. ときどきある」と答えた方にお尋ねします。>

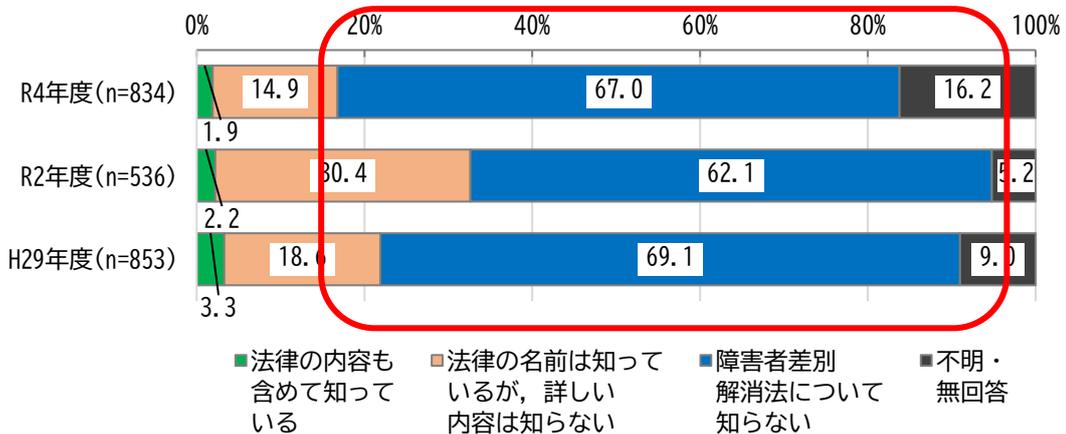
問 32 差別や嫌な思いをした場面を教えてください。MA

全体では「外出中」が最も高く、「職場」、「店などの対応・態度」と続きます。手帳別でみると、身体障害者手帳・療育手帳所持者では「外出中」、精神障害者保健福祉手帳所持者では「職場」が最も高くなっています。

	1	2	3
全体 201 件	外出中 (41.3%)	職場 (29.4%)	店などの対応・態度 (25.9%)
身体 105 件	外出中 (45.7%)	店などの対応・態度 (30.5%)	職場 (28.6%)
療育 54 件	外出中 (50.0%)	学校 (37.0%)	店などの対応・態度 (29.6%)
精神 51 件	職場 (43.1%)	外出中 (35.3%)	病院 (29.4%)

問 33 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。

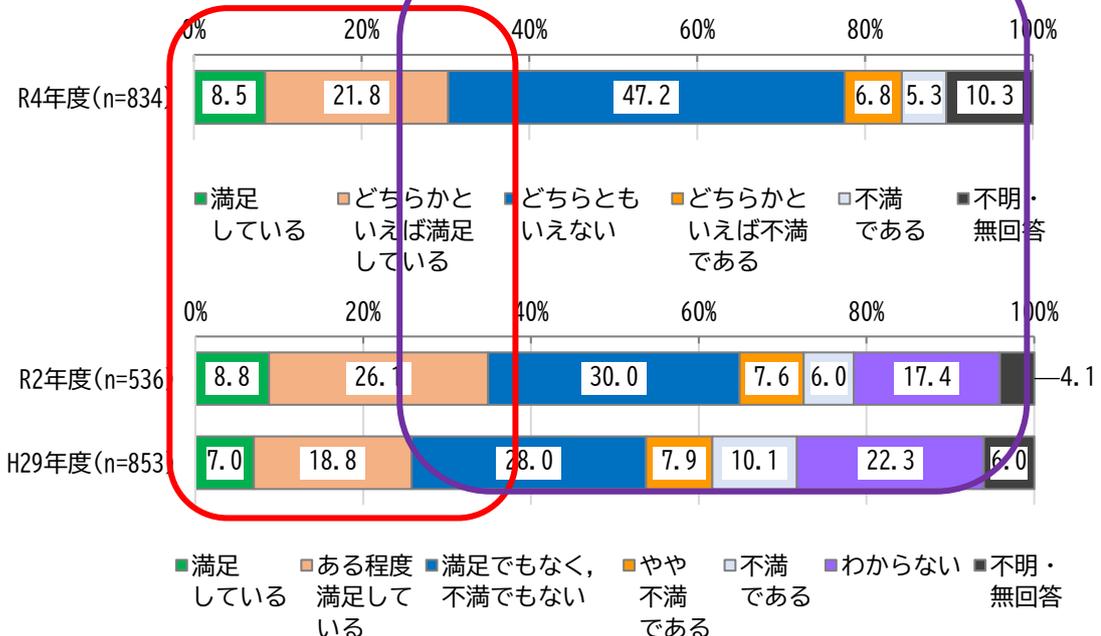
「障害者差別解消法について知らない」が 67.0%と最も高く、次いで「法律の名前は知っているが、詳しい内容は知らない」が 14.9%、「法律の内容も含めて知っている」が 1.9%となっています。過去の調査と比較すると、令和2年度に認知度が増加したものの、令和4年度に再び減少しています。



【満足度について】

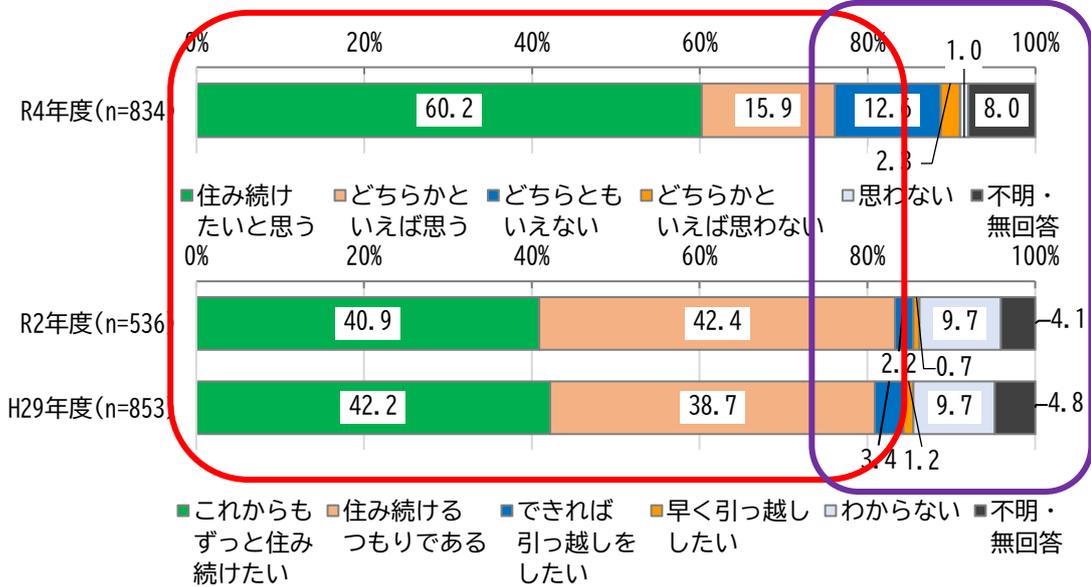
問 39 あなたは、鈴鹿市の障がい者福祉施策に満足していますか。

全体で見ると「満足している」「どちらかといえば満足している」を合わせたものが 30.3%、「不満である」「どちらかといえば不満である」を合わせたものが 12.1%となっています。過去の調査と比較すると、「満足している」「どちらかといえば満足している」を合わせたもの、「不満である」「どちらかといえば不満である」を合わせたものは令和2年度から減少。「どちらともいえない」が増加しているのは過去の選択肢では「わからない」があったため、「わからない」が「どちらともいえない」に含まれていると考えられます。



問 40 あなたは、これからも鈴鹿市に住み続けたいと思いますか。

全体でみると『住み続けたいと思う』（「住み続けたいと思う」「どちらかといえば思う」を合わせたもの）が 76.1%，『住み続けたいと思わない』（「思わない」「どちらかといえば思わない」を合わせたもの）が 3.3%となっています。



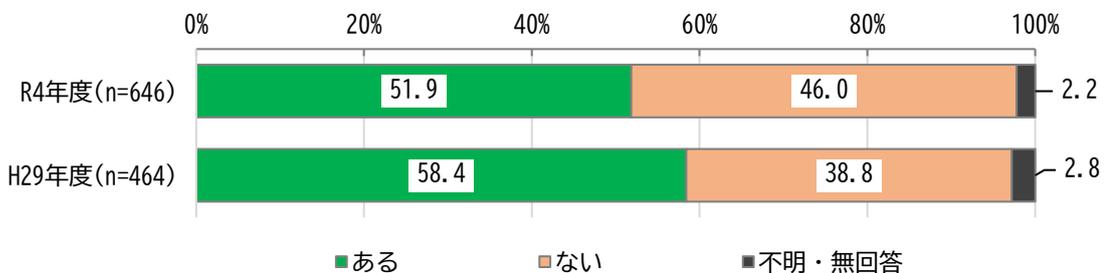
■未所持者調査

【障がいのある方との関わりについて】

問5 あなたはこれまでに障がいのある方と一緒に暮らしたり、遊んだり、学んだり、仕事をした経験がありますか。

全体でみると「ある」が 51.9%，「ない」が 46.0%となっています。過去の調査と比較すると、「ある」が 6.5 ポイント減少し、「ない」が 7.2 ポイント増加しています。

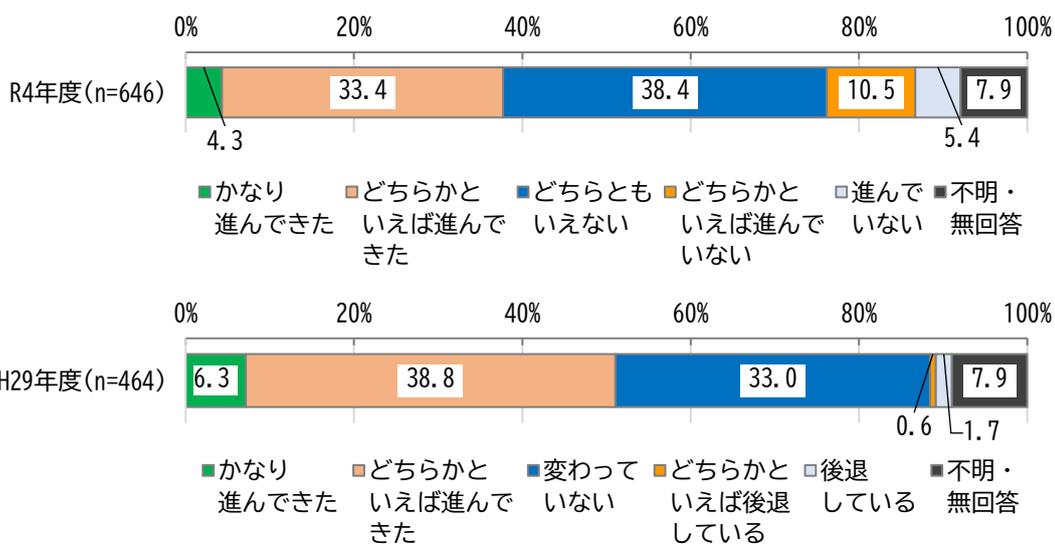
年齢別でみると、20 歳未満から 50 歳代では「ある」が「ない」を上回っています。60 歳代以降では「ない」が「ある」を上回っています。



【障がいがある方への理解について】

問 15 あなたは地域社会の中で障がいのある方に対する理解が進んできたと思いますか。

全体でみると『進んできた』（「かなり進んできた」「どちらかといえば進んできた」を合わせたもの）が 37.7%，『進んでいない』（「進んでいない」「どちらかといえば進んでいない」を合わせたもの）が 15.9%となっています。過去の調査と比較すると、『進んできた』が 7.4 ポイント減少し、『進んでいない』（後退している）「どちらかといえば後退している」を合わせたもの）が 13.6 ポイント増加しています。

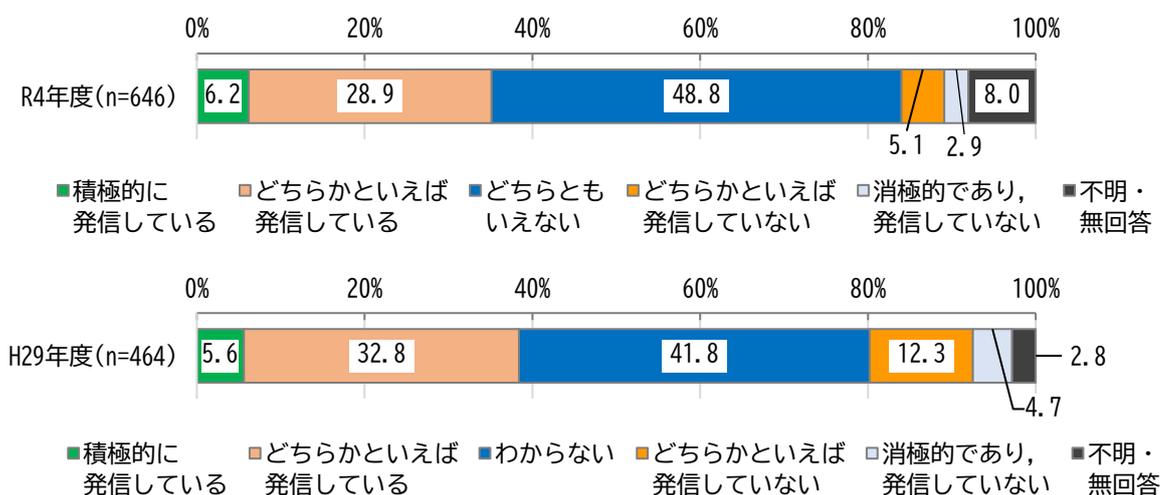


【障がいに関する情報について】

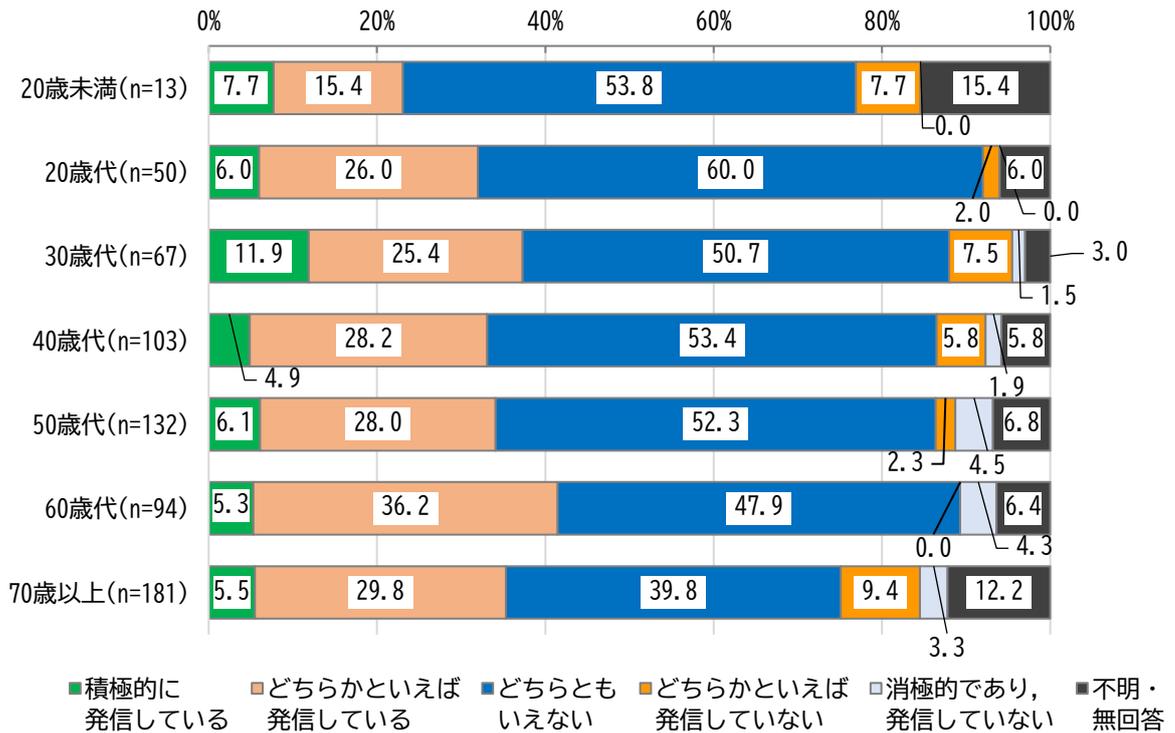
問 21 鈴鹿市は広報すずかやホームページなどで障がいに関する情報を発信していると思いますか。

全体でみると『発信している』（「積極的に発信している」「どちらかといえば発信している」を合わせたもの）が 35.1%，『発信していない』（「消極的であり、発信していない」「どちらかといえば発信していない」を合わせたもの）が 8.0%となっています。

経年で比較すると、『発信している』が 3.3 ポイント、『発信していない』が 9.0 ポイント減少し、「どちらともいえない」が増加しています。



【年齢別】



【障がいのある方を取り巻く環境について】

問 24 障がいがある方にとって住みよいまちづくりに必要な施策は何だと思えますか。
(特にあてはまるもの3つまで) MA

全体で見ると、「障がいの特性を理解し、可能性を伸ばす教育を進めること」が38.9%と最も高く、次いで「就労対策を進めること」が34.8%、「在宅での生活がしやすいよう、医療・福祉サービスを充実させること」が31.1%となっています。

■全体 (n=646)

